

## RXファミリ用リアルタイムOS ご使用上のお願い

RXファミリ用リアルタイムOS RI600V4、RI600PX、RI600/4 および RI600/PXの使用上の注意事項を連絡します。

- コンパイル時に出力されるメッセージに関する注意事項
- リアルタイムOS用タスクアナライザツールに関する注意事項

### 1. コンパイル時に出力されるメッセージに関する注意事項

#### 1.1 該当製品

- (1) RI600V4 V1.01.00 ~ V1.02.02 (統合開発環境CubeSuite+)
- (2) RI600PX V1.01.00 ~ V1.01.01 (統合開発環境CubeSuite+)
- (3) RI600/4 V.1.00 Release 00 ~ V.1.01 Release 01  
(統合開発環境High-performance Embedded Workshop)
- (4) RI600/PX V.1.00 Release 00 ~ V.1.00 Release 01  
(統合開発環境High-performance Embedded Workshop)

#### 1.2 内容

コンフィギュレータによって出力されたヘッダファイル (kernel\_id.h) がインクルードされているファイルを、1.3項に示すいずれかのコンパイラオプションを選択してコンパイルすると、ヘッダファイル内の下記のステートメント部分において、コンパイラが1.4項に示すメッセージを出力する場合があります。

- #pragma task
- #pragma cychandler
- #pragma almhandler
- #pragma taskexception (注)

注: RI600PXおよびRI600/PXのみ該当します。

この場合、コンパイルが停止し、オブジェクトコードが生成されません。  
ただし、コンパイルが正常終了した場合、生成されたオブジェクトコードにはこのメッセージに起因する問題はありません。

### 1.3 発生条件

以下のいずれかの条件を満たす場合に発生します。

- (1) コンパイラオプション "-message" を選択している。  
本オプションは、インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にします。
- (2) コンパイラオプション "-change\_message=warning" を選択している。  
本オプションは、インフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更します。
- (3) コンパイラオプション "-change\_message=error" を選択している。  
本オプションは、インフォメーション、ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更します。

補足: これらのオプションはすべてコンパイラのデフォルト設定ではありません。

### 1.4 発生例

- (1) RXファミリ用コンパイラ CC-RX V1.02.00 ~ V1.03.00 の場合

C6681 (E) This pragma has no effect

(E) の部分は、メッセージのレベルによって変化します。

- エラーレベルの場合: (E)
- ウォーニングレベルの場合: (W)
- インフォメーションレベルの場合 (I)

- (2) RXファミリ用コンパイラ CC-RX V2.00.00 ~ V2.00.01の場合

E0523009:This pragma has no effect

先頭のEの部分は、メッセージのレベルによって変化します。

- エラーレベルの場合: E
- ウォーニングレベルの場合: W
- インフォメーションレベルの場合: M

### 1.5 回避策

以下のいずれかの方法で回避してください。

#### 1.5.1 コンパイラオプション "-message" を選択している場合

"-message" オプションの代わりに、以下のオプションを選択してください。  
これにより、該当するメッセージ番号のメッセージが出力されないようになります。

(1) RXファミリ用コンパイラ CC-RX V1.02.00 ~ V1.03.00の場合

-nomessage=6681

(2) RXファミリ用コンパイラ CC-RX V2.00.00 ~ V2.00.01の場合

-nomessage=23009

#### 1.5.2 コンパイラオプション "-change\_message=warning" を選択している場合

(1) RXファミリ用コンパイラ CC-RX V1.02.00 ~ V1.03.00の場合

以下のオプションを追加することで、該当するメッセージ番号をインフォメーションレベルに変更してください。

-change\_message=information=6681

注意: この追加オプションは、"-change\_message=warning" より後方で指定してください。

CubeSuite+ 使用時は、「コンパイル・オプション」タブ -> 「その他」カテゴリ -> 「その他の追加オプション」テキストボックスで -change\_message=information=6681 と入力してください。

(2) RXファミリ用コンパイラ CC-RX V2.00.00 ~ V2.00.01の場合

以下のように該当するメッセージ番号をウォーニングレベルへの変更対象外としてください。

-change\_message=warning=0-23008,23010-99999

#### 1.5.3 コンパイラオプション "-change\_message=error" を選択している場合

(1) RXファミリ用コンパイラ CC-RX V1.02.00 ~ V1.03.00の場合

以下のオプションを追加することで、該当するメッセージ番号をインフォメーションレベルに変更してください。

-change\_message=information=6681

注意: この追加オプションは、"-change\_message=error" より後方で指定してください。

CubeSuite+ 使用時は、「コンパイル・オプション」タブ -> 「その他」カテゴリ -> 「その他の追加オプション」テキストボックスで -change\_message=information=6681 と入力してください。

(2) RXファミリ用コンパイラ CC-RX V2.00.00 ~ V2.00.01の場合

以下のように該当するメッセージ番号をエラーレベルへの変更対象外としてください。

-change\_message=error=0-23008,23010-99999

## 1.6. 恒久対策

RI600V4およびRI600PXについては、次バージョンで改修予定です。  
RI600/4およびRI600/PXについては、改修計画はありません。  
1.5項の回避策を適用してください。

## 2. リアルタイムOS用タスクアナライザツールに関する注意事項

### 2.1 該当製品

RI600V4 V1.01.00 ~ V1.02.02 (統合開発環境CubeSuite+)

### 2.2 内容

デバッガにおいてブレークポイントを設定し、そのブレークポイントで停止、またはフリーラン状態を停止したとき、タスクアナライザが遷移図描画中に例外を発生し、遷移図が表示されない場合があります。ただし、2.3項で示したようなコードがなければ、本問題は発生しません。

### 2.3 発生条件

作成したアプリケーションにおいて、割り込みハンドラ、周期ハンドラまたはアラームハンドラのうちいずれかから、sus\_tsk サービスコールを発行し、その結果、RunningおよびReady状態のタスクがすべて無くなる場合に発生します。

### 2.4 解決策

次バージョンで改修予定です。

---

#### [免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。